

5月1日現在の就職活動状況

2014年度
Vol. 6

選考解禁からひと月。就職採用戦線は早くも最初の大きな山を越えた。5月1日現在の就活モニターの活動状況について調査を行ったところ、内定率が大幅に上昇していることが分かった。

1. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は53.0%。前年同期(45.8%)より7.2ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは62.0%。前年より4.7ポイント増

2. 5月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- 全体的な活動量は前年と同水準に落ち着く

3. 就職活動継続者の状況

- 新たな企業を探す手段、「就職情報サイト」94.7%、「大学の求人票」34.4%
- 就職活動を終了させたい時期、「6月下旬」までの累積で70.8%

4. 未内定者の今後の見通し

- 「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」63.2%
- 現時点で活動の中心は、「中堅中小企業」「規模こだわらない」が大幅増加

5. 後輩にアドバイスしたいこと

- 12月より前にやっておくこと「自己分析」63.6%、「インターンシップ」49.2%など

6. 就職活動のスケジュールへの意見

- 12月解禁「適している」58.9%、「遅すぎる」23.7%、「早すぎる」17.3%
- 3月解禁「賛成」26.3%、「反対」73.7%

7. 就職活動時の閲読新聞

- 「日本経済新聞」が68.1%で最多。内定取得者では73.9%

8. 就職活動の難易度

- 未内定者の82.1%が「厳しい」と回答。内定取得者でも43.5%に上る

《参考データ》 大学地域別集計(抜粋)

《調査概要》

調査対象 : 2014年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数 : 1,218人(文系男子433人、文系女子317人、理系男子330人、理系女子138人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2013年5月1日~7日
 サンプルング : 日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 5月1日現在の内定状況

5月1日現在のモニターの内定率は53.0%で、前年同期を7.2ポイント上回った。5月の内定率が50%を超えるのは、リーマン・ショック前に就職活動を行った2009年卒者以来5年ぶり。

先月調査でも、内定率は前年同期を4.6ポイント上回っていたが、今回はより差が開いた格好だ。これをもって新卒マーケット本格回復と言えるのか、または早期化で前年より内定出しが早まった結果なのか——現時点ではその両方の面があると考えられる。実際、政権交代後の株高と円安進行で製造業を中心に業績は好転し、採用意欲も高まっている。弊社が今年2月に実施した企業調査(有効回答1,045社)でも、採用人数を「増やす」と回答した企業が全体の24.3%で、「減らす」の10.6%を大きく上回っていた。一方で、早くから全体的に前倒しの傾向も表れていた。

内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは62.0%。前年より4.7ポイント増えており、内定先への満足度が高い、または自身の就職活動に「やり切った感」をもつ学生が増えたようだ。

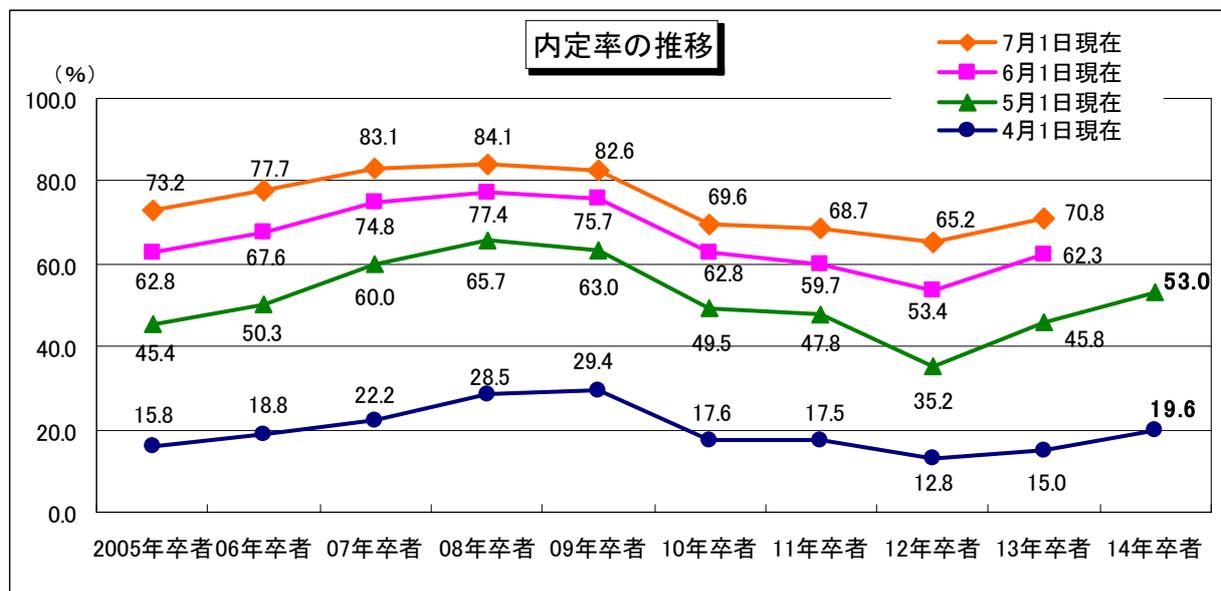
5月1日現在の内定の状況

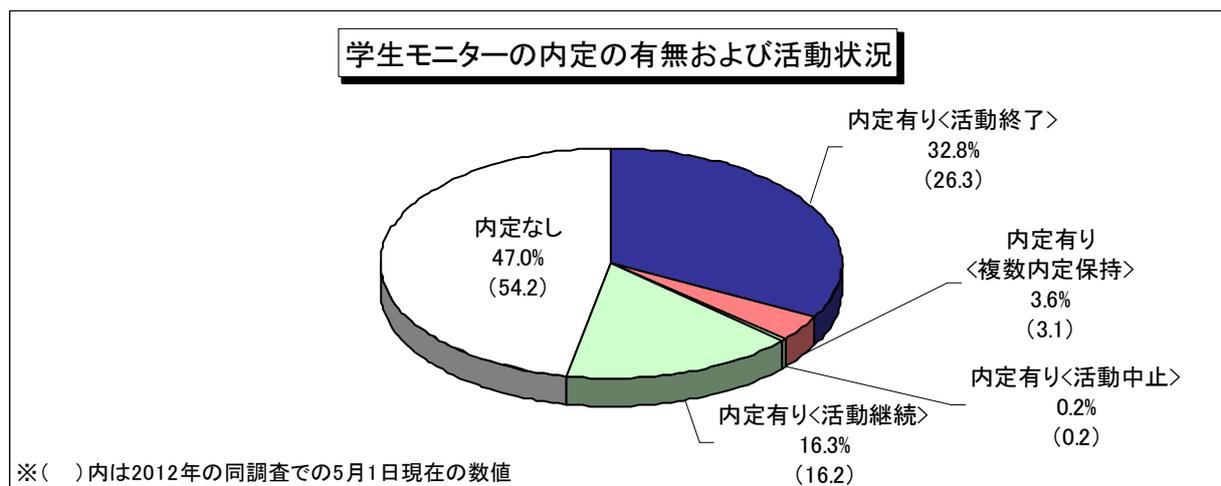
*「内定」には、内々定を含む

(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	53.0 (45.8)	51.5 (50.6)	46.4 (41.1)	60.3 (46.2)	55.1 (40.3)	
内定なし	47.0 (54.2)	48.5 (49.4)	53.6 (58.9)	39.7 (53.8)	44.9 (59.7)	
内定社数(平均/社)	1.9 (1.8)	2.0 (1.9)	1.7 (1.8)	2.0 (1.7)	1.8 (1.7)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	62.0 (57.3)	59.6 (55.1)	49.7 (54.6)	74.4 (63.7)	60.5 (54.0)
	終了したが複数内定保持	6.8 (6.7)	6.3 (8.3)	7.5 (9.2)	6.5 (2.5)	7.9 (6.0)
	進学などの理由で活動を中止	0.5 (0.5)	0.9 (0.5)	0.0 (0.8)	0.0 (0.6)	1.3 (0.0)
	就職活動継続	30.7 (35.4)	33.2 (36.1)	42.9 (35.4)	19.1 (33.1)	30.3 (40.0)

※()内は2012年の同調査での5月1日現在の数値





2. 5月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

今年の学生は早期から活発に行動し、エントリー社数やセミナー参加社数などは前年同期を上回る水準で推移してきたが、徐々にペースが落ち、先月（4月）調査で前年の学生とほぼ同水準になった。

5月1日現在の活動量を見ると、やはり前年同期と大きく変わらない社数を示している。

一人あたりのエントリー社数は平均で84.9社。エントリーシート提出社数は21.2社、企業単独セミナーへの参加社数は23.4社、面接試験9.1社。出足こそ早かったが、採用広報開始から選考開始まで4カ月間という現状のスケジュールでは、このくらいが精一杯の社数なのかもしれない。

受験社数は変わらないのに内定率が上昇していることから、就職環境の改善が感じられる。

5月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年4月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	84.9	81.3	82.3	92.9	100.8	63.1	75.2
セミナー・説明会参加 (社)	51.4	49.3	52.0	56.2	57.4	43.0	42.4
企業単独開催のもの (社)	23.4	21.9	23.2	27.8	26.0	17.9	16.9
合同開催のもの (社)	15.5	15.4	16.8	16.0	17.8	13.2	14.1
学内開催のもの (社)	12.5	12.1	12.1	12.4	13.6	12.0	11.4
オンラインセミナー視聴 (社)	6.3	6.6	-	6.7	6.8	5.5	5.7
ライブ中継 (社)	3.3	3.4	-	3.4	3.8	2.8	2.9
オンデマンド（録画） (社)	3.0	3.2	-	3.3	3.0	2.7	2.8
エントリーシート提出 (社)	21.2	18.6	20.6	23.8	22.9	16.3	20.5
選考試験の受験社数 (社)	27.3	21.6	27.5	31.3	27.8	22.4	24.6
筆記・WEB試験 (社)	13.7	11.8	13.6	15.7	14.2	11.1	12.4
面接試験 (社)	9.1	6.3	9.4	10.6	9.2	7.6	8.0
グループディスカッション (社)	4.5	3.6	4.5	5.1	4.3	3.7	4.2

3. 就職活動継続者の状況

内定者も含め5月1日現在で就職活動を継続している学生(モニター全体の63.3%)の、選考中およびこれから受験する予定の企業(=持ち駒)の数は、平均して5.0社。今後のエントリー予定社数は8.9社だった。未内定者のほうがエントリー予定社数が多く、内定取得に向け積極的に持ち駒を増やそうとしている様子がうかがえる。ただ、内定保持者であっても平均6.2社と決して少ない数とは言えず、企業側から見れば内定辞退予備軍と言え、内定者のフォローも重要だ。

新たな企業を探していると回答した人(活動継続者の83.4%)に、その手段を聞いたところ、「就職情報サイト」が94.7%と9割を超えており、学生にとって依然主要なツールとして機能していることが確認できる。次に多いのが「大学の求人票」で、34.4%。

また、いつ頃までに就職先を決めて活動を終了させたいか、との問いには、「5月下旬」と答えた人が最も多かった(22.4%)。「6月下旬」までを合計すると70.9%となり、6月を一つの区切りと考えている学生が多いことが分かる。

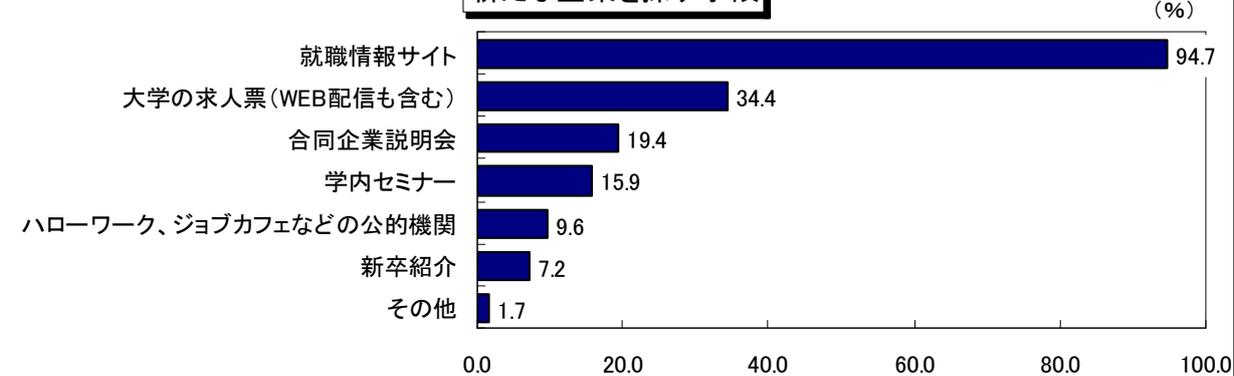
選考進行中および今後受ける予定の企業(持ち駒)社数

	全 体	内定保持者	未内定者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
5月1日現在	5.0	3.9	5.3	5.1	5.5	4.0	4.8
4月1日現在	8.4	8.3	8.4	9.3	9.9	6.3	6.7

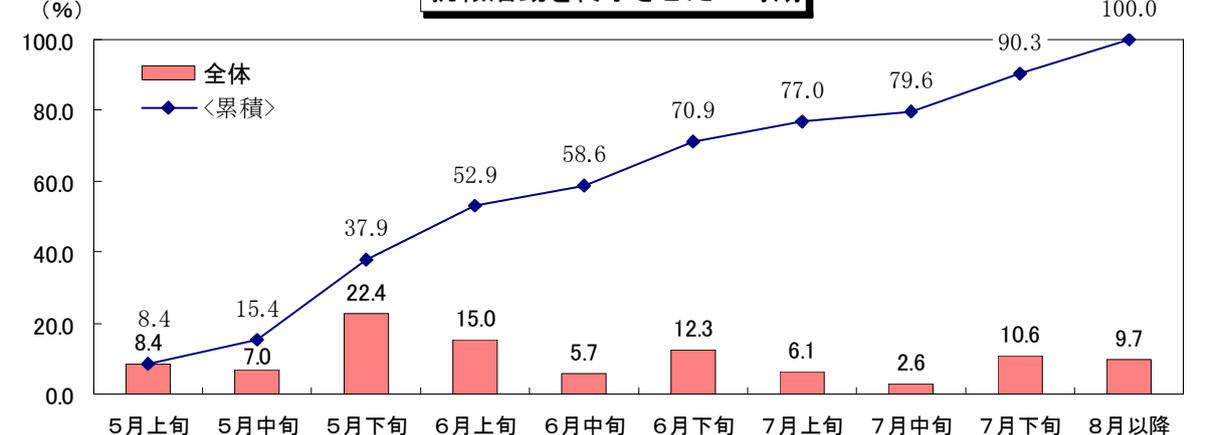
今後のエントリー予定社数

	全 体	内定保持者	未内定者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
5月1日現在	8.9	6.2	9.5	9.3	9.8	7.7	7.3
4月1日現在	12.0	7.5	12.4	12.7	13.0	10.2	10.3

新たな企業を探す手段



就職活動を終了させたい時期

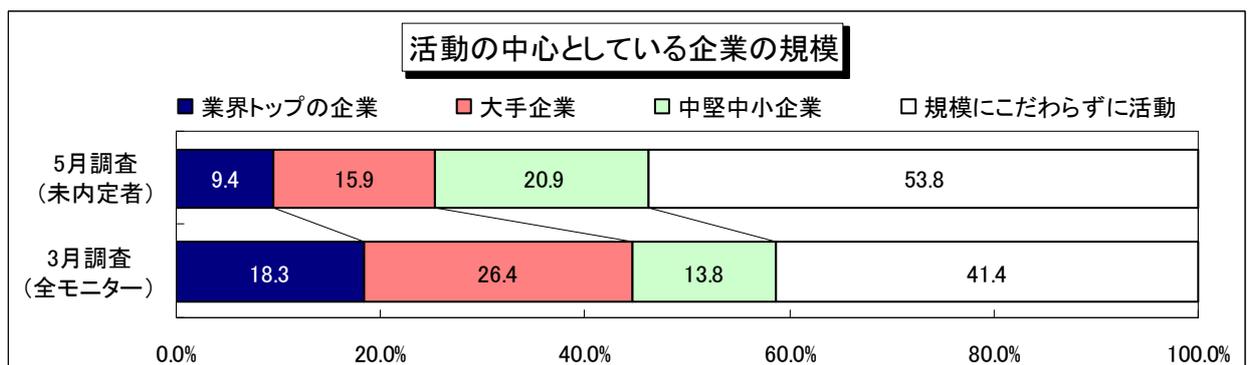
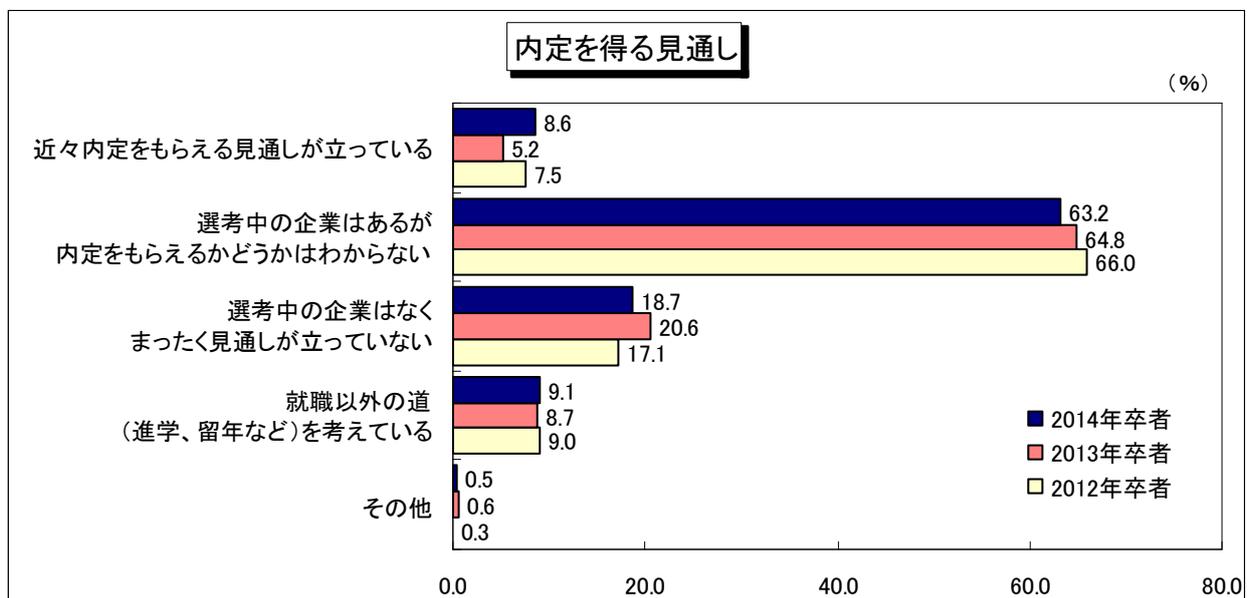


4. 未内定者の今後の見通し

5月1日現在で内定を得ていない学生（モニター全体の47.0%）に、今後の見通しを聞いた。最も多いのは「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」の63.2%。「選考中の企業はなくまったく見通しが立っていない」と、持ち駒がゼロだという学生が18.7%。

「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」と、就職戦線からの離脱を考える学生は前年よりやや多い9.1%。4月の選考で思うように内定が取れず、早々に今年の就職を断念する学生が出始めている。

さて、未内定者に現時点で活動の中心としている企業の規模を聞き、全モニターに3月に聞いたデータと比較してみた。「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答が3月調査より大幅に増えている。大手では既にエントリーの受付を終了したり、事実上選考を終了したりしているところもあり、必然的に中堅中小へとシフトしてきているのだろう。



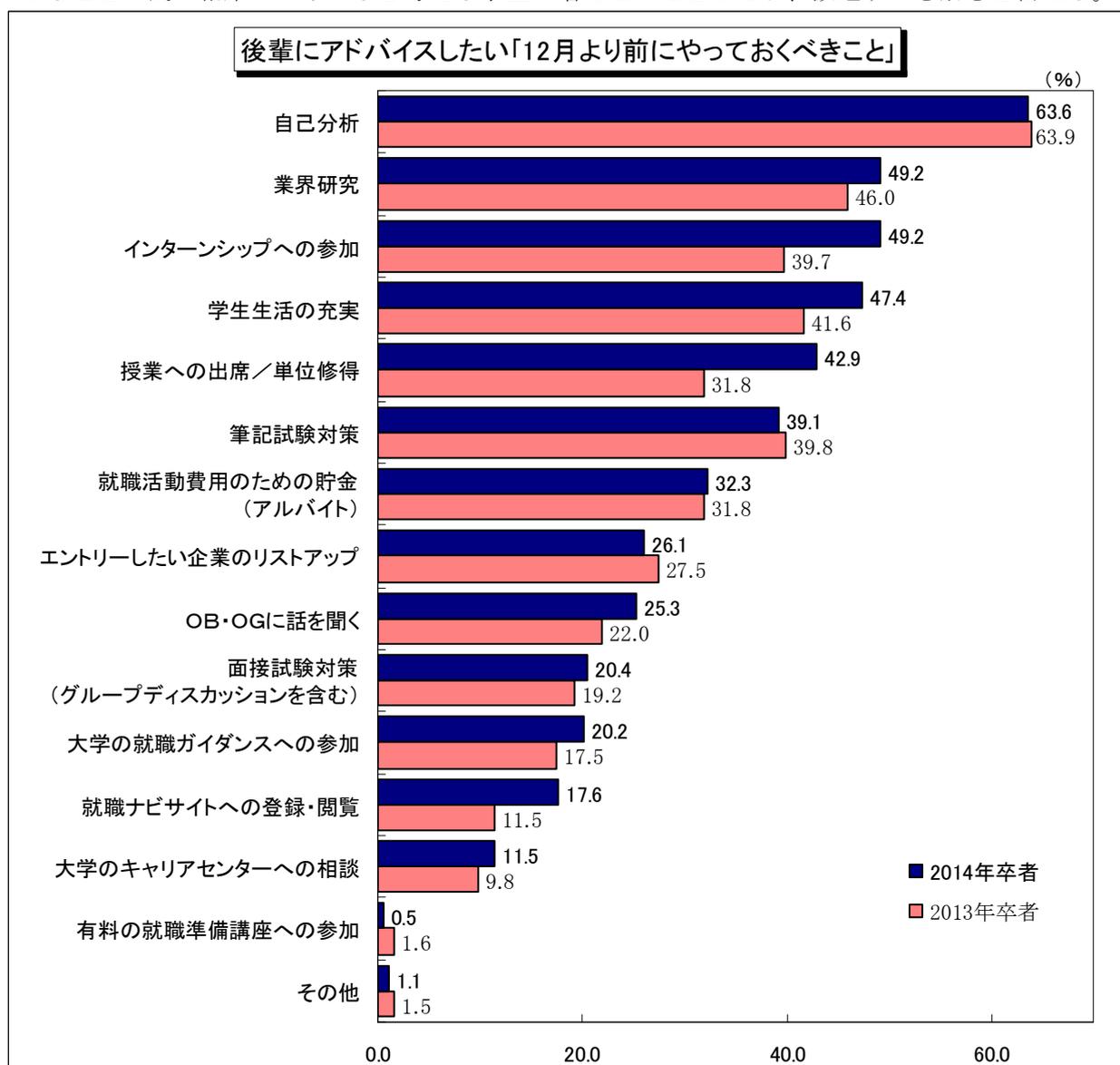
5. 後輩にアドバイスしたいこと

少々気が早いですが、来年就職活動を行う後輩に向けて、「企業のエントリー受付解禁前（12月より前※）にやっておくべきこと」をアドバイスするとしたら、どんなことを挙げたいかを聞いてみた。（※倫理憲章は、2015年卒者の採用までは現行のスケジュールの見通し）

あてはまるものを選択肢からすべて選んでもらい、前年調査の結果と比較してみた。「自己分析」が最多である点は前年と変わらず、就職活動をスムーズに進めるには12月になってから始めたのでは遅い、と考えている学生が依然多いことが分かる。

最も数字が増えたのは「インターンシップへの参加」。前年の39.7%から49.2%へと約10ポイント増加した。今期の第1回調査で52.5%がインターンシップ参加経験あると回答しており（前年度モニターより8.3ポイント増加）、経験率の高さも影響していると思われるが、夏休み中などに参加することで就職について考えるきっかけになったとの経験から、ぜひ後輩にも勧めたいという声が多い。

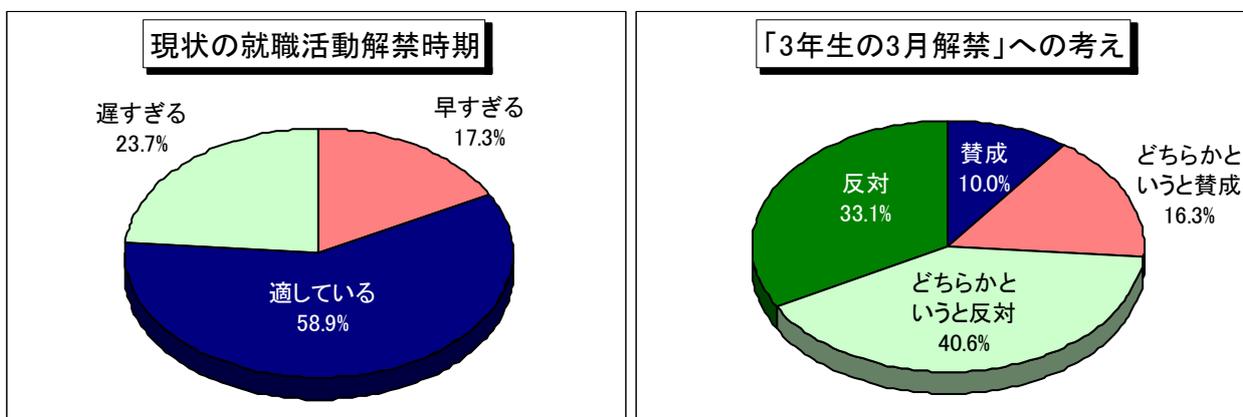
「学生生活の充実」を選ぶ学生も増えた。特別な準備をするよりも、日々の学生生活を充実させることが良い結果につながると考える学生が増えたのだとしたら、歓迎すべき動きと言える。



6. 就職活動のスケジュールへの意見

企業の採用広報開始が12月になって2年目となるが、このタイミングを就活解禁時期としてどう捉えているかを聞いた。58.9%と約6割が「適している」と判断。その理由として「春休みを有効に活用できる」という意見が目立った。今年は改定2年目で大きな混乱がなかったこともあるだろう。「遅すぎる」が23.7%と2割強あったが、「4月の選考開始までの期間が短く、セミナーなどのスケジュールが過密だった」ことを挙げる学生が多かった。「適している」とした学生の中にも、「12月になってから始めるのでは遅く、事前の対策が必要」との認識を示す学生も少なくない。

就職活動の解禁時期が「3年生の3月」へと3カ月繰り下げられること(2016年卒者から適用見込み)について、学生の立場から賛成か反対かと聞いたところ、「賛成」26.3%、「反対」73.7%で反対のほうが多かった。時期が遅くなることに純粋に不安を覚えるという声が目立った。



■就職活動解禁(12月1日)のタイミング

《適している》

- 春休みである2月や3月が就活のピークになるので学業と両立しやすい。 <文系女子>
- サマーインターンに参加することを考慮すると、本選考に臨むまでにちょうどよい期間ができるので、自己分析の猶予がある。 <文系男子>
- 一般的な大学3年生が学園祭に力を入れ終わって一段落したところでの広報開始のため、多くの学生が区切り良く就職活動を開始できると思うため。 <文系男子>
- 遅すぎず早すぎずと思っている。しかし、実際10月くらいから就活のことを意識しておかないと間に合わない。12月にすべて(筆記対策や自己分析なども含む)をスタートするには間に合わないと感じた。 <文系女子>
- これ以上遅いタイミングになると、就活が不安で学業に手がつかなくなる時期が長引くと思う。 <理系男子>
- あまり長くなってもきついただけだと感じる。説明会の時期が長期休業中でちょうどよかった。また、これより遅くなると卒業論文との両立が難しくなると考える。 <理系女子>

《遅すぎる》

- 秋頃からでもいいと思う。企業研究が間に合わない。 <文系女子>
- あまり多くの企業を見られなかったから。すぐにテストもあってきつい。 <文系男子>
- 説明会が詰まっていて、忙しくてエントリーシートを書く時間がなかった。 <理系女子>
- やや忙しかった。まとめて就職活動できた点では便利かもしれないが、研究がまったく進まなくなるなど、ほかのことが滞った。 <理系男子>

《早すぎる》

- 就職活動は遅ければ遅いほど良い。大学生活を優先して楽しむべきだ。 <文系男子>
- 3年生という時期に就活が始まるのは、気持ち的にもなかなか入っていけない気がします。 <文系女子>
- 3月の学会の準備で忙しく、エントリーシートを書く余裕がなかった。 <理系男子>

■解禁時期が3月に繰り下げられることについて

《賛成》

- 大学のテスト期間と被らないのでいいと思う。 <文系男子>
- 学業により専念できると考えるので。留学などへの時間を取りやすくなると考えています。 <文系女子>
- しっかり単位を修得した人には、ご褒美の意味合いもあっていいと思う。 <文系男子>
- 学部生はわからないが、大学院生は修士の一年間を研究に専念できるので良いと思う。 <理系男子>

《反対》

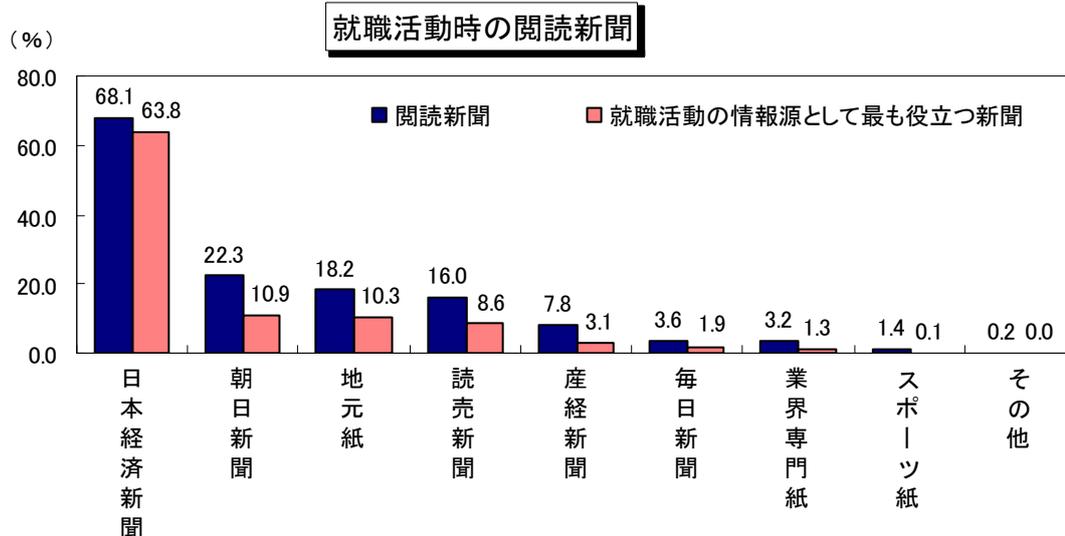
- 決まらないまま卒業を迎える学生が増加すると思うから。多忙を極め、精神的につらいと思う。 <文系男子>
- 学業を優先させることは正しいことだと思うが、夏にスーツを着て行動するのはつらいと思う。 <文系男子>
- いちばん暇な春休みの2月の時点で情報が公開されていないのは時間の使い方として非効率。 <文系女子>
- 先輩が卒業してしまうから。 <理系男子>
- 4月から4年生となり、卒業研究に向けて頑張らなければならない時期にも関わらず、就活と同時に行わなければならない。その結果、両方とも中途半端になる可能性が高い。 <理系女子>

7. 就職活動時の閲読新聞

就職活動中の閲読新聞があるという人（全体の74.5%）に、具体的な新聞名を聞いたところ、「日本経済新聞」が最も多く、68.1%と7割近くに上った。次いで「朝日新聞」22.3%、「地元紙」18.2%、「読売新聞」16.0%と続く。

属性別にみると、「日本経済新聞」の閲読率は理系より文系でやや高い傾向があるが、文理男女いずれの属性も6割を超えており、偏りなく読まれていることが分かる。また、内定ありグループは内定なしグループと比較して「日本経済新聞」の閲読率が高く、73.9%と7割を超えている。

就職活動の情報源として最も役立つ新聞には、他紙を大きく上回り「日本経済新聞」（63.8%）が選ばれた。

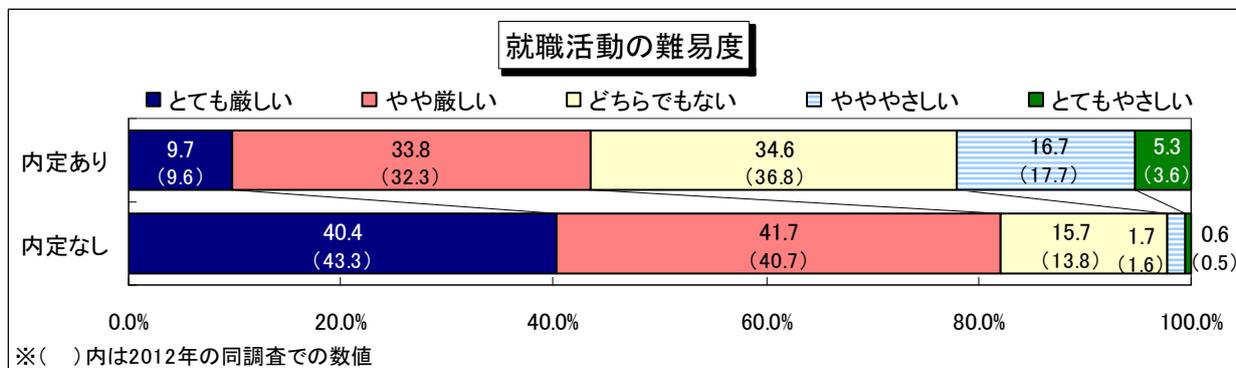


	日経	朝日	地元紙	読売	産経	毎日	業界専門	スポーツ	その他
文系男子	69.9	23.4	16.4	14.2	8.1	3.1	4.7	1.9	0.3
文系女子	69.1	25.3	21.9	17.6	6.4	3.9	0.9	0.4	0.0
理系男子	66.5	17.0	15.6	17.9	9.4	4.5	4.0	1.8	0.4
理系女子	62.6	23.1	22.0	14.3	6.6	3.3	1.1	1.1	0.0
内定あり	73.9	18.8	14.0	15.2	6.9	2.9	3.5	1.7	0.4
内定なし	61.7	26.2	22.9	16.8	8.9	4.4	2.8	1.2	0.0

※表は「閲読新聞」のスコア

8. 就職活動の難易度

就職活動の感触を内定の有無別に集計してみた(「わからない」と回答した人を除いてグラフ化)。「厳しい」と感じる学生の割合は、やはり未内定者で高く、82.1%と8割強に上る。内定取得者においても43.5%と4割以上は「厳しい」と回答し、相応の苦労がうかがえる。



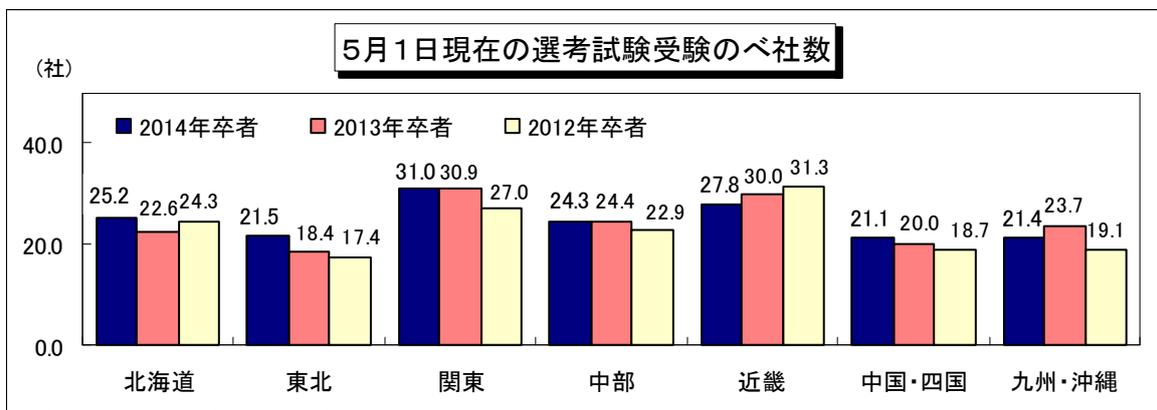
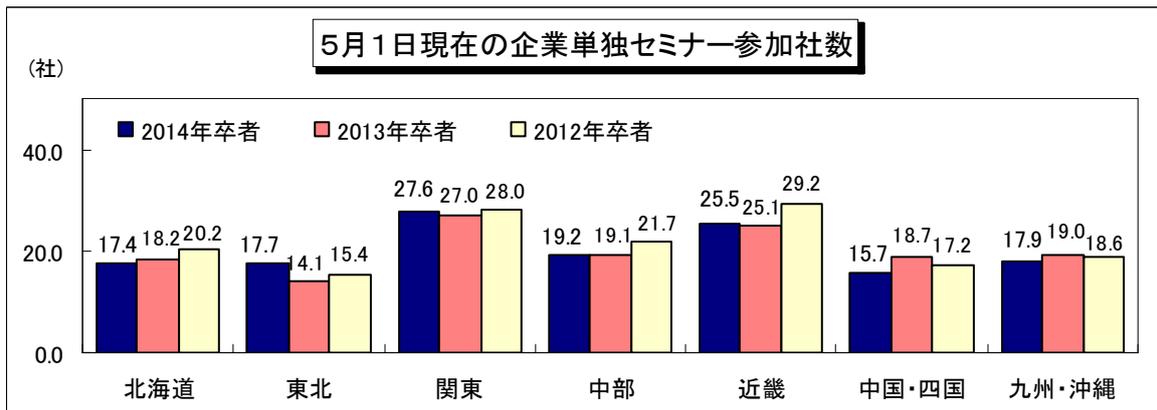
■就職活動に関して思うこと (内定者)

- 苦労も多かったが、振り返ってみるととても充実した経験ができ、よかった。ただ、もう一度やるかといわれたら、やりたくはない。 <文系男子>
- 企業から選ばれるのではなく、自分が選ぶのだという姿勢で行く必要があると感じました。 <文系女子>
- 就職活動をがんばっても意味がない。それまでの学生生活でどれほど価値のある時間を過ごしてきたかが大切だと思う。 <理系男子>
- 長かった。もっとエントリーシートで絞って欲しい。何度も面接に行く費用も体力も限られているから。 <理系女子>
- 面接を通過した人と落ちてしまった人への連絡が同じタイミングでくる企業は、すごくいいと思う。他の企業も見習ってほしい。1週間ほど携帯から手が離せないことがあった。 <文系男子>
- 単に就職先を決めるのではなく、人生を決める活動なんだなあと、特に内々定を一ついただいてから強く感じる。自分の納得度ができるだけ高い会社に入るためにも、放り投げずにもう少し就職活動を続けようと思う。 <文系女子>
- 持ち駒を増やそうと、なんとなく受けた会社に内定を頂いた。選考でお会いした人事の方や面接官の方は大変親切で、とても魅力的な方々だった。ただ、事業内容自体にとりわけ強い関心があるわけではなく、この会社の内定を受けてよいものか悩んでいる。 <理系女子>

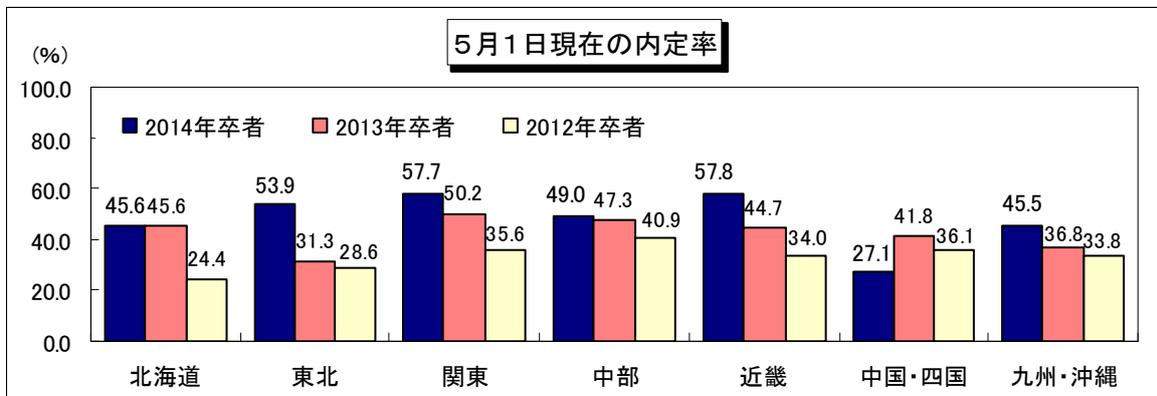
■就職活動に関して思うこと (未内定者)

- いろいろな業界を見すぎて、志望動機が薄っぺらくなってしまっていたかなと反省中です。もうひと踏ん張り、頑張ります。 <文系男子>
- これで決まらなかったらまた最初からか・っって気持ちが面接へのモチベーションを下げます。 <理系男子>
- 選考が進みどうにか内定が得られそうだと考えていたのですが、結局全滅してしまい、正直なところ途方に暮れています。就職活動で失敗してしまったらそのまま社会的に居場所がなくなってしまいそうで怖いです。 <文系女子>
- 自己分析はもっと早くからやっておけばよかった。大学入学後から就職に向けて多くの経験をしてあげばよかった。 <文系男子>
- すごく骨の折れるエントリーシートを求められたが、その後の面接が10分程度で終わり、「ご縁がありませんでした」という結果では納得できないことがあった。企業側も面接の仕方やスケジュールを工夫し、もっと学生と真剣に向き合う姿勢を作ってほしい。 <文系女子>
- 徐々に選考を通過するようになるにつれ、自分を認めてもらえたようでうれしくなる。この気持ちを大切にしたい。 <理系女子>

《参考データ》 大学地域別集計



※「WEB・筆記試験」「面接試験」「グループディスカッション」を足し合わせた社数



希望勤務地(複数回答)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
北海道	80.9	7.9	7.6	3.2	4.4	4.3	5.1
東北	11.8	69.7	8.9	2.5	4.0	4.3	6.1
関東(東京都除く)	29.4	43.4	61.0	29.9	19.5	14.3	26.3
東京都	44.1	57.9	89.7	47.1	42.6	27.1	50.5
中部	16.2	15.8	15.7	84.1	17.5	10.0	16.2
近畿	22.1	14.5	16.5	29.3	88.4	41.4	32.3
中国・四国	10.3	6.6	8.0	3.2	13.1	75.7	21.2
九州・沖縄	11.8	5.3	9.3	3.8	8.0	24.3	82.8
海外	23.5	14.5	19.7	10.8	15.5	10.0	21.2

【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2014年卒者	68	76	497	157	251	70	99
2013年卒者	57	67	506	165	226	91	95
2012年卒者	45	49	435	154	212	72	78